

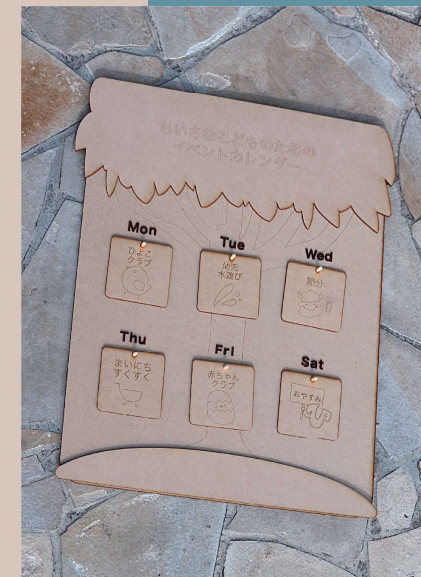
児童館の活動情報を地域へ発信する為の仕掛けの提案

背景・目的

児童館がガイドラインにおいて、「児童館は活動内容を広報することに努めなければならない」とされ、児童館において広報は重要な位置付けを示している。また、東郷町の兵庫児童館では民間の企画力を活かした自由度の高いイベントが開催されており、利用者への活動の周知が重要であるといえる。中でも、兵庫児童館の児童館だよりは、情報発信が不十分であると感じた。そこで、本企画では兵庫児童館の広報の現状の把握をした上で、より兵庫児童館の魅力を地域住民に伝えることを目的とする。

児童館の現状

児童館は公営と民営で運営主体が別れており、中でも今回の対象施設となる兵庫児童館は、東郷町内の児童館 6 つの中で唯一の民営である。広報の点から、兵庫児童館の児童館だよりに着目した際に、約 10 年前からデザインの変化は誤差であった。改善するため、東郷町内全 6 ヶ所の児童館の児童館だよりを比較し、現状を整理した。

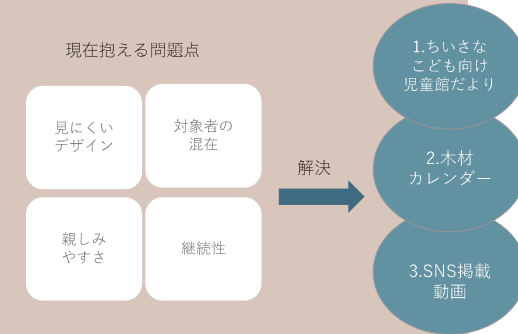


東郷町内の児童館の比較

主な共通点として、どの児童館だよりもワードやパワーポイントで簡易的に作成されたものであり、写真や文字などの配置にバラつきがあり文字情報が多いため、読みづらいものが多い印象を受けた。児童館ごとに多少の特色は見られるが、どことなく似通ったデザインのものが多かった。

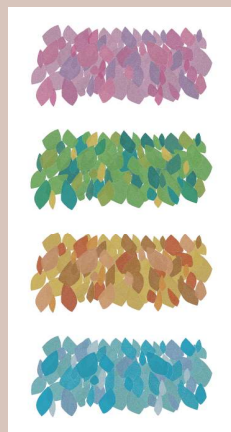
調査概要児童館の現状

兵庫児童館の児童館だよりについての管理者の意向を把握することを目的としたインタビューを実施。調査の結果から、児童館だよりのデザインの見直しを行い、発信したい対象者が二つに混在している点から、新たに児童館だよりの対象者を絞った見やすいデザインフォーマットを提供できないかと考えた。新たな広報のツールとして、SNS を開設し、中でもインスタグラムのアーカイブ機能を使った通年で使用可能な広報を提案した。



1. ちいさなこども向け 児童館だよりのフォーマット

兵庫児童館の中庭のシンボルツリーをイメージしたイラストを中心に、春夏秋冬の季節ごとに木の葉の色が変化するようなデザインとした。過去2年間で行われている頻度の高いイベント行事をピックアップし、ピクトグラムのようなイラストアイコンを配置することで、こどもにもわかりやすいデザインを目指している。対象を幼児親子向けに絞ったことにより見やすさを追求した。また、カレンダー形式にすることで、一目でイベント情報が伝わり、カラー印刷しデザインに温かみを加えることで、家庭内で掲示し、共有してもらうことも狙っている。



2. 木材カレンダー

ちいさなこども向けの児童館だよりを元に、素材は木材のMDF、サイズ685×525、厚さ5センチで制作した。イラストアイコンの札も同様の素材である。兵庫児童館のシンボルツリーから素材は木材を選択し、温かみの感じるデザインにした。設置場所は、幼児親子向けのイベントを行う際、頻繁に使う機会の多い児童館内の図書室に設置する。壁に掛け使用を想定している



3.SNS 掲載 動画

兵庫児童館の写真を自ら撮影を行い、そのデータを使用して施設紹介や注意喚起などを伝える動画を制作した(図5)。個人情報やプライバシーの侵害に配慮し撮影を行った。インスタグラムのストーリーサイズに動画をトリミングし、児童館について(40秒)、施設紹介、(37秒)来館時のお願い、(24秒)の三つの動画に分けて作成した。アーカイブに掲載する際のサムネイルは兵庫児童館のシンボルツリーを元にイラストを作成し使用した。児童館側に動画データを渡し、掲載するだけの形にした。



まとめ

本企画では、児童館をより身近に感じてもらうため、児童館の活動内容を広報した。三つの広報を通して、管理者が使用しやすく継続して繋げられるものを作成することができた。管理者フォローをすることで、児童館で行う企画に対して士気が上がり、今後の企画がより良いものとなり広報する内容も増えていくのではないかと考える。